

平成25年度 第1回埼玉県公共事業評価監視委員会 会議要旨

1 農林部所管事業

森林管理道整備事業 二子線

委員：費用対効果について、前回再評価と比べて費用が下がっている。コスト縮減によるものと思われるが、具体的にはどのような事例があるか。

事業課：幅員を5mから4mにするなどのコスト縮減を図っている。

委員：3路線共通に言えることだが、積極的にコスト縮減に取り組んでいることをもっと主張してほしい。コスト縮減による事業費の縮減額などが分かるとよかった。

委員：路網作業システムはどのようなものを想定しているか。

事業課：路網密度はha当たり25mを目標としている。寄居方面では作業道と高性能林業機械による搬出も行っている。

委員：索道は集材架線に表現を直してほしい。架線集材よりトラックとタワーヤードを併用した方がより経費を縮減できる。永久構造物としての作業道の作設など路網作業システムについては再検討してほしい。後でセミナーをやった方がよいのでは。

委員：林道の効果を示すのに、どのような作業をやることで林道の効果が上がるのかが分かるように検討してほしい。

委員：幅員を4mにすることで、通行の安全や防災面で問題はないか。

事業課：必要に応じて拡幅を行ったり待避所を設けたりしているので、5m幅員時と同等のトラックも通行可能である。

委員：う回路としての効果を挙げているが、林道の交通量はどのように見込んでいるか。

事業課：接続する国県道の10年当たりの通行止め日数と、近隣の県道の交通量調査から推計している。

委員：林道ができる前と後とでは、地域から出される木はどう変化しているか。

事業課：地域ごとのデータはないが、全県での素材生産量は、平成4年の4万2千 m^3 から平成24年の8万4千 m^3 まで伸びている。

委員：費用便益分析で山地保全便益を計上しているが、人工林を作り、山を切り崩して林道を作るより、広葉樹林のままの方が山地は保全されるのではないか。

事業課：人工的に植林されたところは間伐などの森林整備を進めることで治山効果が得られる。広葉樹でもある程度の崩壊の可能性はある。人工林を強度に間伐して、針広混交林化も進めている。

委員：維持管理費用には道路の補修費用を計上しているか。

事業課：土砂排土とともに路面を均す不陸整正も計上している。

委員：防災面や緊急車両の通行を考えると、木材を道路上に置いたままにするのは禁止すべきでは。

事業課：幅員内に置かないようにし、緊急車両等の通行は確保している。また、伐採業者は林道の占用許可を取って仮置きしているが、防災面を考え長期にわたる占用はしていない。

委員：木材生産量の伸びは林道を整備したことと因果関係はあるか。

事業課：整備した路線沿いに間伐が進んでいるので、関係があると考えている。

委員：路線ごとに効果が分かるものがあるとよい。

委員：林道の開設済みのところから森林整備を行い、その材をすべて搬出していると考えてよいか。

事業課：間伐した材は、すべてではないが搬出している。

委員：林道沿いの木材生産量が分かれば事業の効果も具体的にあってよいのではないか。

事業課：今後検討する。

委員：林道上の作業や占用許可はどこで出すのか。

事業課：林道を管理している県が許可している。木材の仮置きは、道沿いだけでなく、別に造成した通行に支障のない土場に置いておく場合もある。

委員：林道を整備したことで木材生産量などがどう変わったかなどを定量的に説明できるとなるとお分かりやすい。

森林管理道整備事業 八日見線

委員：主な便益としてう回路や観光資源を挙げているのであれば、林道としてではなく道路として整備してもよいのではないか。林業従事者が林道整備によって林業を発展させていこうという動機付けになるのか。林道の趣旨は何か。

事業課：林道の趣旨は効率的な林業経営、森林整備の促進、山村生活環境の改善である。林業が振るわないこともあり、他の面を強調したくなるということもある。また、高齢化や後継者不足もあり、山に魅力がないと人も留まらず、森林整備が進まない。

委員：路網計画や森林整備計画など、現状で説明するより、先の可能性を見据えた資料作りをしてほしい。

委員：費用対効果分析における費用が前回の再評価に比べて下がった理由は何か。

事業課：事業の終期が見えてきたため、現状の開設単価に合わせた結果、下がった。

委員：う回路として機能することによって救われる集落は何世帯か。

事業課：終点側の薄の集落が約40軒である。

委員：都市の集約化も踏まえた事業の検討をしてほしい。

委員：最近の災害や山腹崩壊の可能性等はどの程度か。

事業課：近年は森林整備が進んで山地崩壊の頻度は減ってきている、また、全県で山地災害危険地区の指定はあるが、場所により危険度は異なる。

委員：B/Cだけにとらわれずに森林の未来の可能性を語ってほしい。

森林管理道整備事業 御岳山2号線

委員：他の2路線に比べて残事業量が多いが、平成35年度までに終わるのか。遅れはどの程度深刻か。

事業課：当初計画では、平成25年度に完了予定であった。近年の年間施工量から、平成35年度までに終わる見込みである。

委員：木材生産等便益が前回再評価時から大きく減った理由は何か。

事業課：人工林率が低いからである。

委員：3路線に共通するが、埼玉の林業をどのように発展させようと考えているのか、計画（ビジョン）を提示してほしい。

事業課：将来的フレーム等があるので、第3回委員会で説明する。

委員：炭素固定便益や木材生産等便益などが、前回再評価時と大きく変わった理由は何か。

事業課：林野庁による単価の見直しや、木材価格の変動等による。

委員：通行安全確保便益について、交通安全施設の設置費用を便益としているが、費用に入るように思える。マニュアルがそうなっているのか。

事業課：林野庁のマニュアルで便益に計上することになっている。

委員：森は林業だけではないので、将来ビジョンでは観光面についても言及してほしい。

委員：長期ビジョンには木質バイオマス燃料の活用についても記載してほしい。

委員：3路線について、林道台帳記載の人家数とは林業従事者の戸数か、林道沿線の戸数か。

事業課：林道沿線の人家数であり、森林所有者数ではない。

委員：林業の発展計画（ビジョン）に関する資料については第3回委員会までに用意するように。